

大鹿村騒動記

原田芳雄

大楠道代

岸部一徳

佐藤浩市

松たか子

富浦智嗣

瑛太

石橋蓮司

小倉一郎

でんでん

加藤虎ノ介

小野武彦

三國連太郎

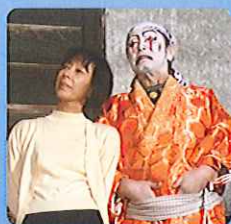
忘れられない思い出したくもない女が帰ってきた。



7月16日(土)全国ロードショー

企画・監督: 阪本順治 脚本: 荒井晴彦 阪本順治 主題歌: 忌野清志郎「太陽の当たる場所」(ユニバーサルミュージック)

制作: 中沢敏夫 山田康平 吉田浩 宮本信子 プロデューサー: 横井弘子 原案: 堀江 浩 音楽: 安川午郎 撮影: 笠松利通 照明: 石下和男 録音: 関井康雄 美術: 原田清生 編集: 幸野 亮 スクリプター: 今村治子 衣裳: 若崎文子 ノイタ: 貴川京子 助監督: 小野寺昭彦 制作: エディタインターナショナル パブリック 関西テレビ放送 講談社 TOKYO FM キーホ 宣伝・配給: 東映 ©2011「大鹿村騒動記」製作委員会 〆 〆 〆 www.ohshika-movie.com



娯楽の原点
ここにあり。



涙も忘れて心が躍る、 小さな村のハレ舞台。

雄大な南アルプスの麓にある長野県大鹿村。そこでシカ料理店を営む初老の男・風祭善(原田芳雄)は、300年以上の歴史をもつ村歌舞伎の花形役者だ。だが実生活では女房に逃げられ、あわれ独り身をかこっていた。そんなある日、公演を5日後に控えた折も折、18年前に駆け落ちした妻・貴子(大楠道代)と幼なじみの治(岸部一徳)が帰ってくる。脳の疾患で記憶をなくしつつある貴子を一きなり返され、途方に暮れる善。強がりがながらも心は干々に乱れ、ついには芝居を投げ出してしまう。仲間や村人たちが固唾を吞んで見守るなか、刻々と近づく公演日。そこに大型台風まで加わって……。ハテ300年の伝統は途切れてしまうのか、小さな村を巻き込んだ大騒動の行方はいかに!?

美しき日本の山村で「芸能の原点」を守ってきた人たちの、ホロ苦くもオカシミあふれる群像劇——。日本映画界を代表する名優・原田芳雄が「70代を迎えて、どうしても演っておきたかった」という珠玉の人間ドラマが、最高のキャスト・スタッフを得てここに完成した。監督はあの鮮烈なデビュー作「どついたるねん」以来、「KT」「座頭市 THE LAST」など計6本にわたって原田に熱い眼差しを向けてきた阪本順治。誰もが待っていた「20年越しのガチンコ勝負」の実現に大楠道代、岸部一徳、佐藤浩市、松たか子、瑛太、石橋蓮司、三國連太郎などの豪華実力派が駆けつけ、遊び心たっぷりに脇を固めている。さらに忌野清志郎の隠れた名曲「太陽の当たる場所」が主題歌に選ばれ、悲喜こもごもの結末を温かく包み込む。ままたらぬ事情を抱えた人生と、浮き世の憂さも吹き飛ばすハレ舞台。日本映画が久しく忘れていた滋味深い「オトナの喜劇」の誕生だ。

